

2024年度卒業生動向調査

調査目的:卒業生を対象に大学における学生生活に対する満足度や在学中に身につけた能力及び現在の職業生活などについての実態把握と分析を行い、より良い大学作りに向けた検討材料とする。

対象者:2024年3月に亀田医療大学を卒業した臨床経験1年目の看護師
72名

調査期間と方法:

2025年4月21日から5月12日

質問紙調査／インターネットによる回答

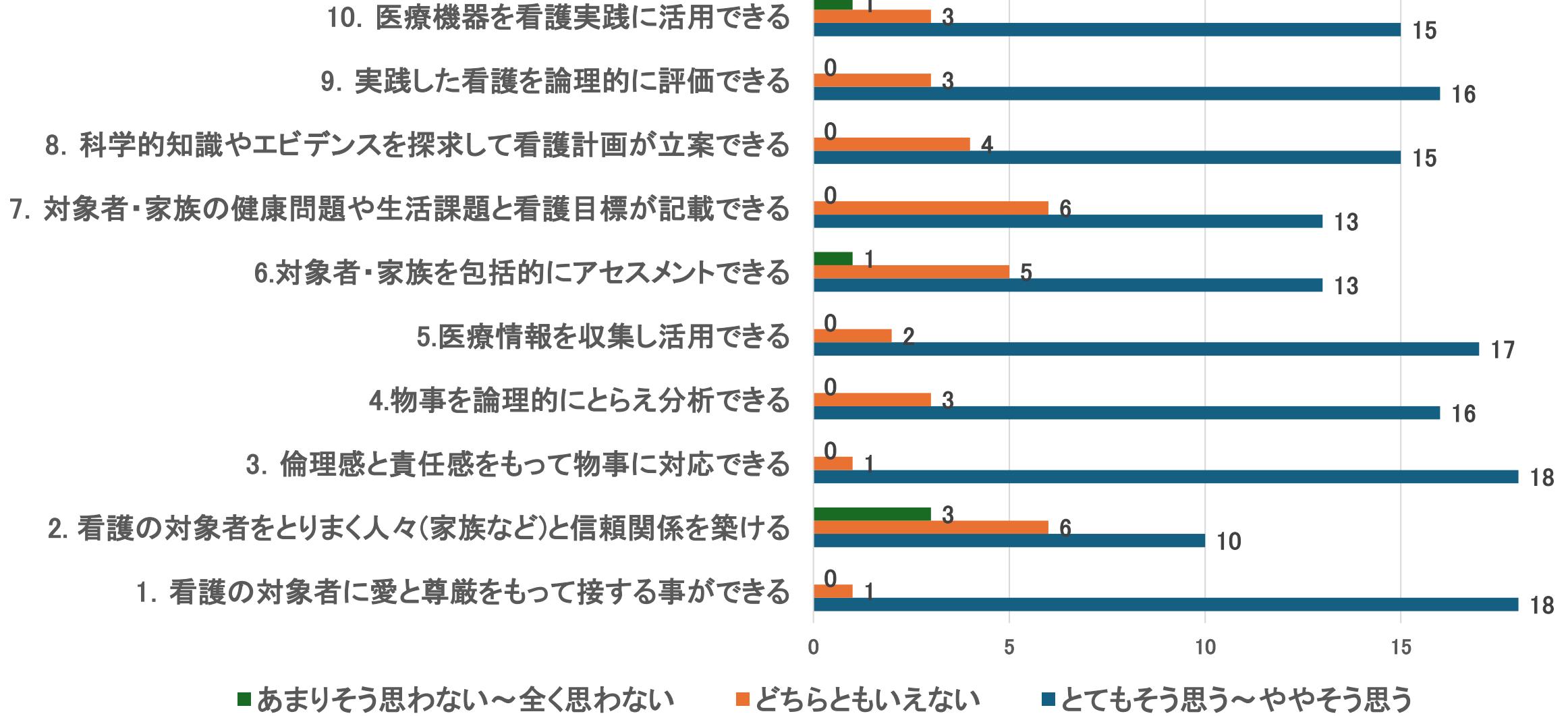
回答者数:19名(26.4%)

結果

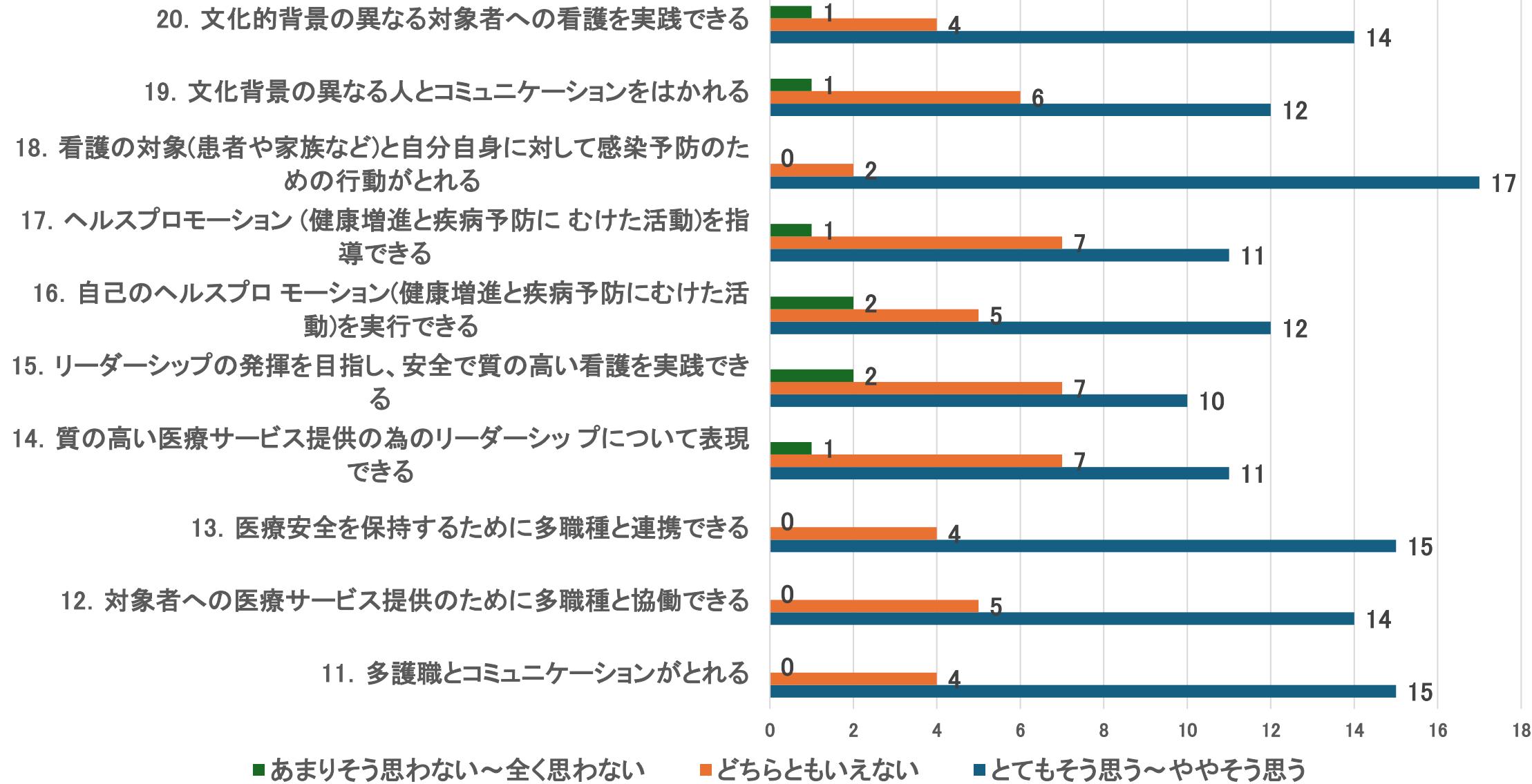
対象者の属性

移住地	千葉県内(18名)	千葉県外(1名)
性別	男性(1名)	女性(18名)
職種	看護師(19名)	—
勤務先	病院(18名)	福祉施設(1名)
転職経験	あり(1名)	なし(19名)

スキル(実践能力)の必要度: 発揮できているか(教育目標1~10)



スキル(実践能力)の必要度: 発揮できているか(教育目標11~20)



スキル(実践能力)の必要度: 発揮できているか(教育目標21~28)

28. 慢性的な健康課題を有する 対象者・家族に看護を実践できる

27. 急激な健康破綻に直面している対象者・家族に看護を実践できる

26. (健康増進～終末期など)多様な健康レベルにある対象者に看護を実践できる

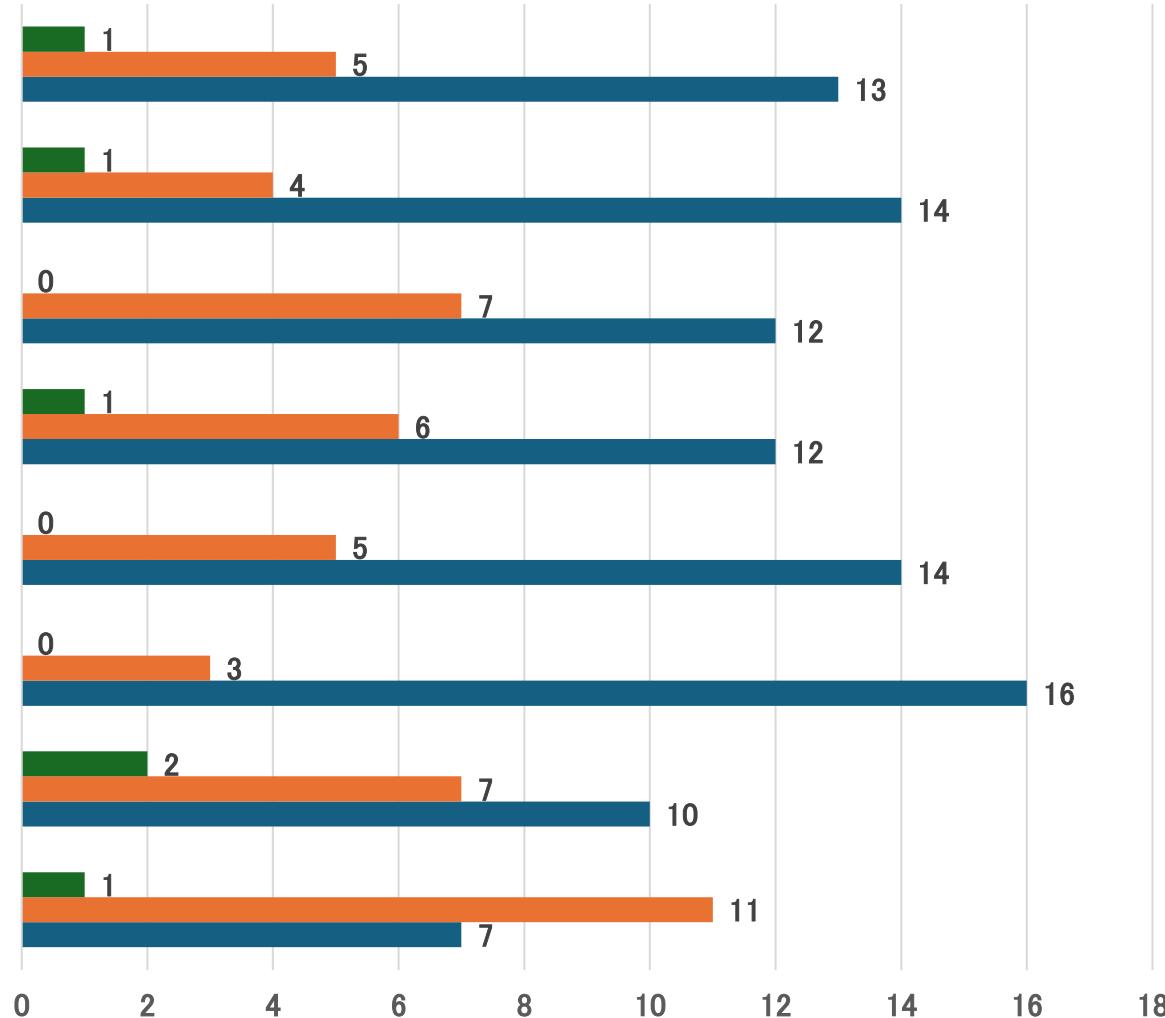
25. (新生児～高齢者といった)多様な年齢層の対象者に看護を実践できる

24. 専門性を向上させるための研修会・講習会・学会などに自
主的に参加する

23. 専門性を高めていくにあたり自己の課題が述べられる

22. 地域における特性と健康課題を探求できる

21. 国際的な視野をもって健康課題を捉えられる



■あまりそう思わない～全く思わない ■どちらともいえない ■とてもそう思う～ややそう思う

スキル(実践能力)の必要度: 発揮できているか

7. さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、具体化する能力



6. 現状や事実のなかに隠れている問題点や その要因を発見し、解決すべき課題を設定する能力



5. 収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握する能力



4. 課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査・整理する能力



3. 主体的に動き、良い行動を習慣づける能力



2. 前向きな考え方、やる気を維持する能力



1. ストレスのかかる場面でも、気持ちの揺れを 制御する能力



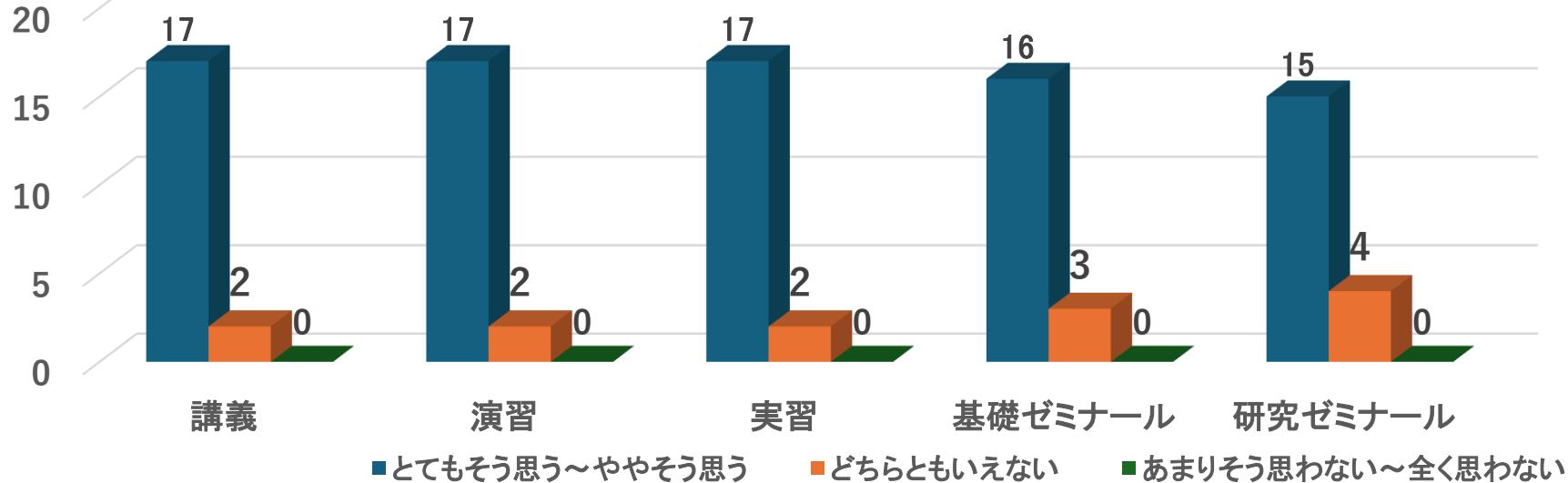
■あまりそう思わない～全く思わない

■どちらともいえない

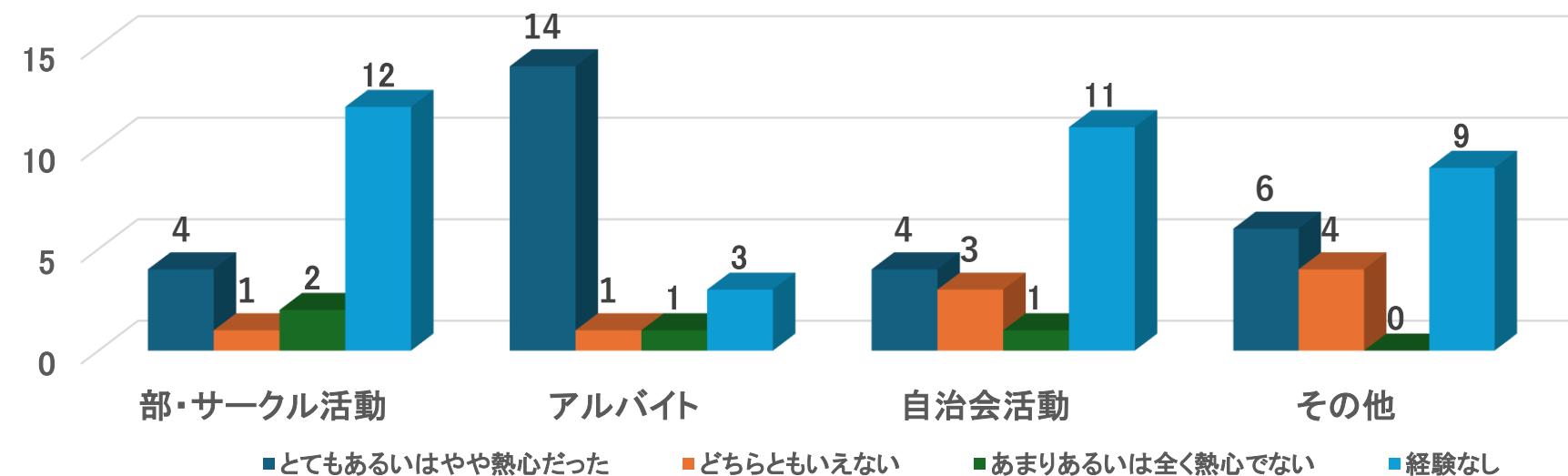
■とてもそう思う～ややそう思う

学生時代の取り組み

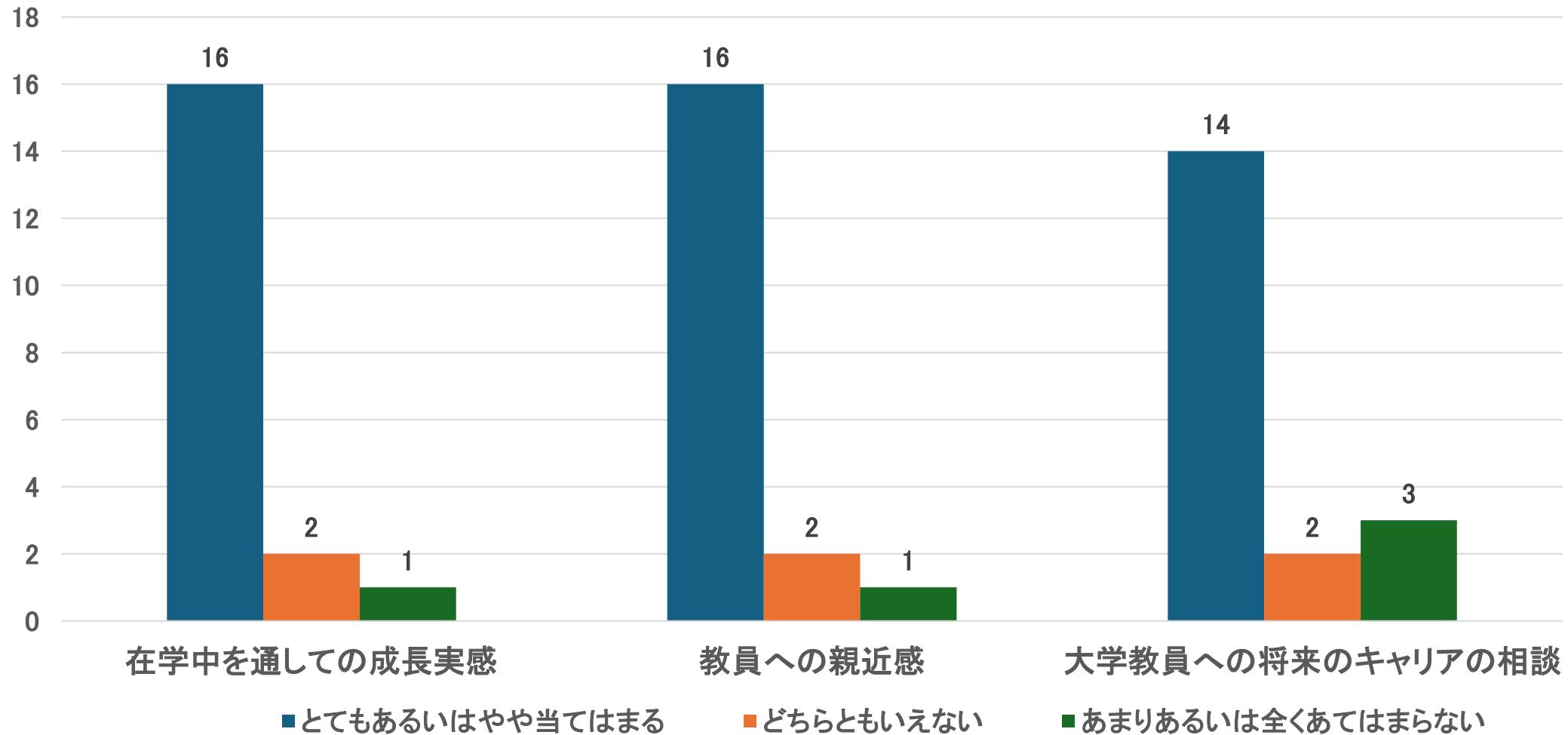
講義・演習・実習



部・サークル、自治会、アルバイト等



大学時代の成長実感など



研究ゼミナールの意義

主体的な学修態度を養う経験



困難なことを最後までやり遂げる経験



自分の主張を分かりやすく伝える方法を学ぶ



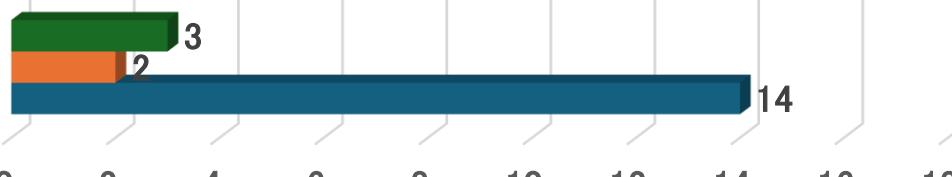
色々な人と議論する経験



教養的知識の必要性を知る経験



専門教育の仕上げ

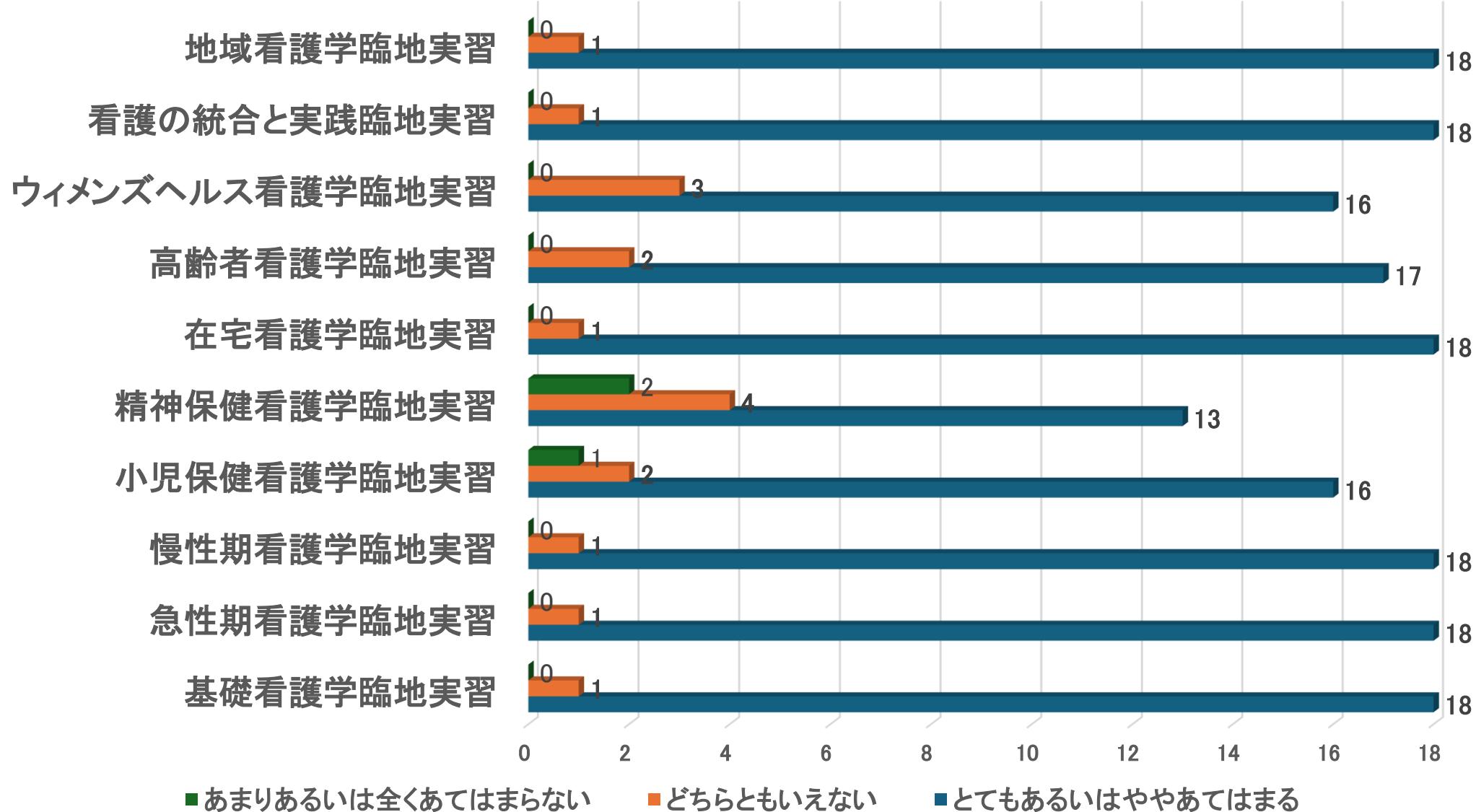


■あまりあるいは全くあてはまらない

■どちらともいえない

■とてもあるいはややあてはまる

看護学臨地実習の意義

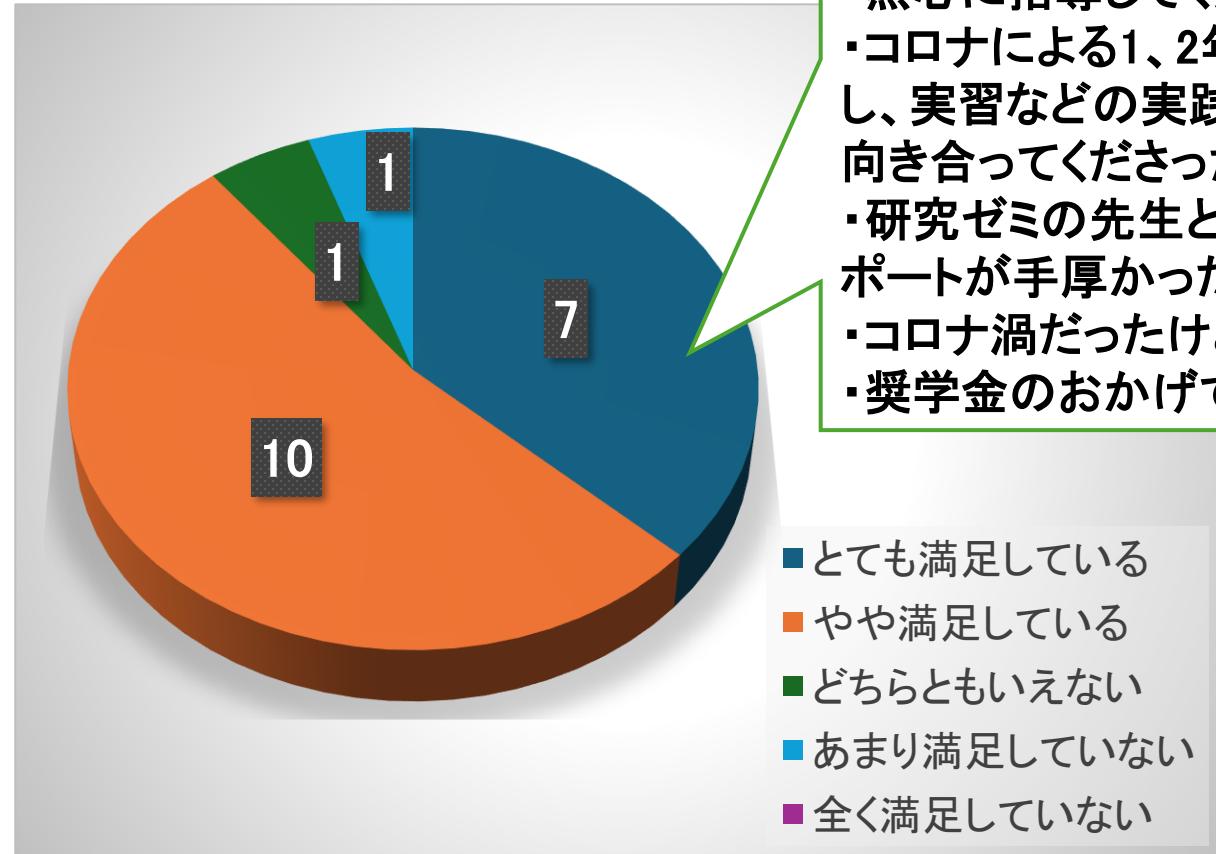


本学のイメージ

(複数回答)

内 容	2023年卒	2024年卒
伝統・実績がある	1	1
教育内容が充実している	3	11
教育内容のレベルが高い	0	2
研究内容に力を入れている	1	3
社会で役立つ力が身につく	7	5
グローバル教育が充実している	1	3
学修設備や環境が充実している	7	4
地域連携に力を入れている	7	6
産官学連携に力を入れている	0	0
社会貢献活動に力を入れている	0	0
スポーツに力を入れている	0	0
大学全体の教育方針が明確である	4	4
各学部の教育方針が明確である	2	1
学生に活気がある	3	2
就職支援が充実している	10	8
特になし	4	2

大学に対しての満足度



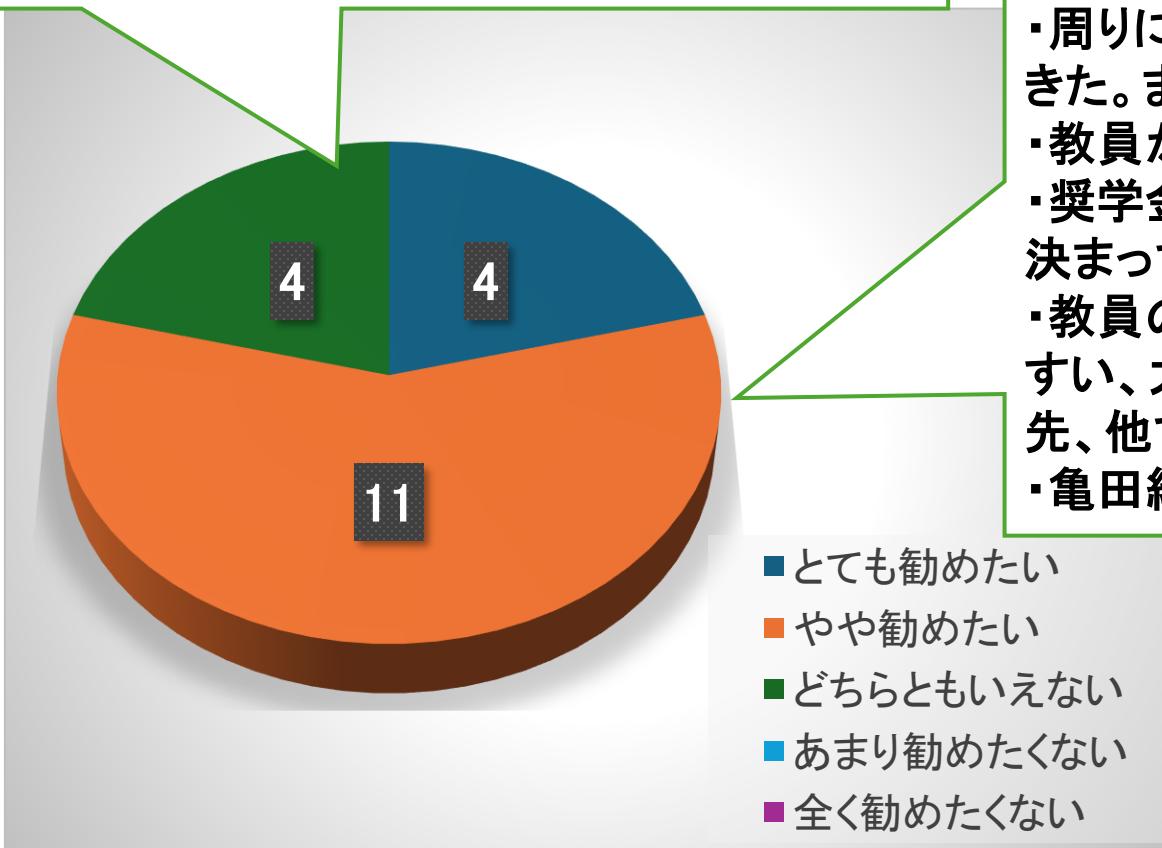
満足している理由

- ・楽しかったです。
- ・とても先生、事務の人が親身になって話を聞いてくれた。
- ・4年間先生たちと仲良く楽しくできて色々学べた。
- ・就職面について系列グループの病院があることからあまり心配をせずに勉学に励むことができた。
- ・教員との距離が近く、一人暮らしでも寂しさを感じることが少なかった。
- ・熱心に指導してくださった(4名)。
- ・コロナによる1、2年の基礎分野の講義があまり効率的ではなかった。しかし、実習などの実践分野では教職員の皆さまがしっかり学生一人ひとりに向き合ってくださいました。
- ・研究ゼミの先生と合わず悩むことが多かったが、実習中の先生方のサポートが手厚かった。
- ・コロナ渦だったけど演習や実習ができた。
- ・奨学金のおかげで、勉学に集中することができた。

大学に対しての推奨度

あまり推奨できない理由

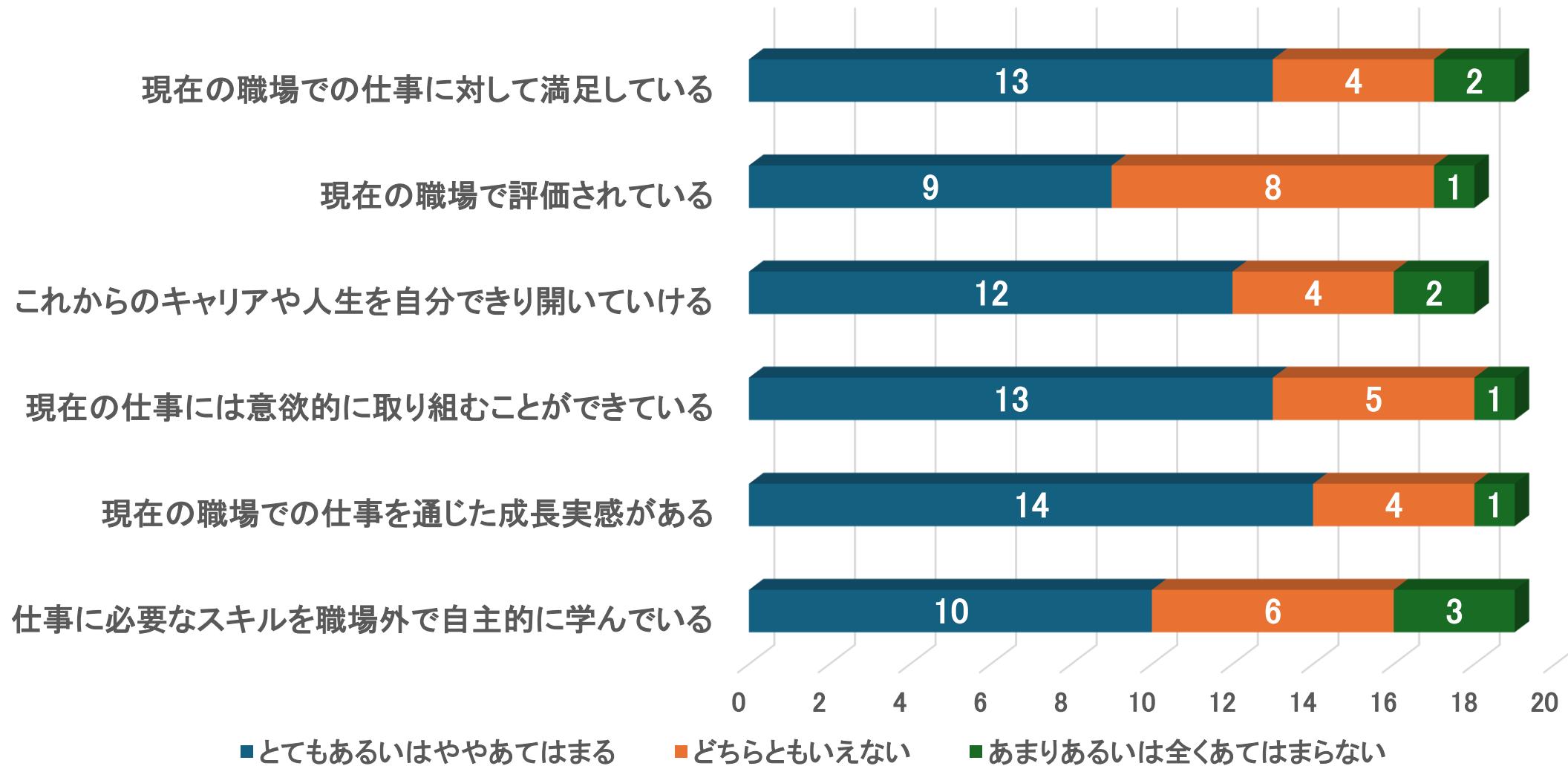
- ・田舎すぎて車がないと不便、コミュニティが狭い。
- ・系列病院はそこそこネームバリューのある病院ではあるが、大学としての歴史はまだ浅く学力的な視点からも勧めたとしても志望する学生はあまり多く無いだろうと感じる。



推奨したい理由

- ・学校生活は大変だったが充実していたから。
- ・設備もよく田舎ながらも地域の特性を理解することが出来、寄り沿った看護の提供を学ぶことが出来る。
- ・亀田病院で実習ができる。
- ・周りに遊ぶ環境がないことが逆に良い点であり、勉強に集中できた。また、自主学習のスペースも多く、活用できた。
- ・教員が親身で充実している。
- ・奨学金があるのと、亀田病院と連携しているから、実習先がほぼ決まっているのがよいと思う。
- ・教員の方との距離が近く安心感がある、大学の施設が使いやすい、大学の仲間と支え合いができる、自然豊か、充実した実習先、他では経験できないことが多い。
- ・亀田総合病院で実習でき、就職につながること。

仕事の満足度とキャリア意識



【卒業生から本学へのメッセージ】

- ・利便性が向上されると良いと思います。
- ・国家試験にもっと力を入れて行くべきだと思います。特別講義が10万以上するのは知らなかつたため、大きな負担でした。
- ・もっと海外交流を増やしてグローバルな学校になつたらいいなと思います。系列病院の人員不足解消には亀田の専門学校や大学の力が必要不可欠であると思います。
- ・大学での教育内容や学生生活の満足度は近隣の他大学と比較しても遜色ないと感じています。
- ・しかし、学歴コンプレックスなどの言葉が流行している近年では大学進学を目指している学生にとって大学の学力は何よりも重要視される条件であるのに対し、国家試験の合格率や偏差値に関しては低迷しているのではないかと感じています。看護師を志す学生にとって学校選びに際しては国試合格率は何よりも重要な情報です。より良い大学を目指すのであればまずはその部分を改善していくのが良いのではないでしようか。
- ・これからも学生に親身に寄り添う大学であってほしいです。

【卒業生から在校生へのメッセージ】

- ・頑張って良い看護師になって下さい。
- ・応援しています。
- ・学生住宅は共同スペースです。住民の方はもちろん、地域の皆さんに迷惑にならないよう、騒音やゴミに気をつけて生活してください。
- ・看護師、保健師、助産師を目指す学生の皆さん、現在は目の前の課題や実習などに追われ忙しい中でもひたむきに頑張っていることと思われます。ですが、大学の4年間はあっという間にすぎていきます。実際に社会人になってからは、勉強時間が足りなかつたと感じることの方が多いです。毎日の講義や演習で得たものは確実に吸収して、それぞれが目指す医療者になれるように、もう一踏ん張り、頑張ってください！
- ・周りの友達、家族、先輩、先生の力を借りることは全く悪いことでは無いので、一人で抱え込まず頑張ってください。
- ・大学で学んだことは無駄にならないです。
- ・レポートや課題は一回溜め込むとどんどん溜まるので、大変でもコツコツやっていくことが重要です。
- ・こんなに沢山の人に支えられながら成長できる環境は他にないと思います。今ある環境に感謝をしながら、学生生活を謳歌してほしいです。勉強が辛くて辞めたくなるときもあるかもしれません、看護師になれば人生の選択肢が増えることは間違いないので、諦めずに頑張ってほしいです。

分析

実践能力の必要度(教育目標1～28)についてはどれくらい発揮できているか回答を得た。その結果、教育目標において37%～53%の者が、「発揮できていると思う」と回答していた。その中で「国際的な視野をもって健康課題を捉えられる」が37%ともっとも低かった。次に、「看護の対象者をとりまく人々(家族など)と信頼関係を築ける」、「リーダーシップの発揮を目指し、安全で質の高い看護を実践できる」、「地域における特性と健康課題を探求できる」の3項目が53%、「ヘルスプロモーション(健康増進と疾病予防にむけた活動)を指導できる」、「質の高い医療サービス提供の為のリーダーシップについて表現できる」の2項目が58%と低かった。また、これらの項目は、卒業後に経験ができない可能性がある。

学生時代の取り組みとして、講義・演習・実習・ゼミナールにおいて取り組んだと回答した学生は78%～89%であった。また、学生時代にとても熱心に取り組んだのは『アルバイト』で74%と多かった。また、経験なしと回答したのは『自治会活動』で58%と多く、『部・サークル活動』も63%と多かった。『自治会活動』及び『部・サークル活動』の経験が少なかったのはコロナ禍の影響があったと考える。

大学時代に成長実感を感じていた者が84%、教員への親近感を感じていた者が84%、大学時代に将来のキャリアについて相談していた者が74%であった。教員への親近感を感じていた者が多かったのはチューター制の影響と単科大学の特徴であることが考えられる。

研究ゼミナールでは、74%～89%が意義があると回答し、「教養的知識の必要性を知る経験」、「困難なことを最後までやり遂げる経験」、「主体的な学修態度を養う経験」が89%と高い傾向にあった。

看護学臨地実習については意義があると回答した者が68%～95%であった。特に成人看護学Ⅰ(急性期看護学)と成人看護学Ⅱ(慢性期看護学)、基礎看護学、在宅看護学、地域看護学、看護の統合と実践の臨地実習において95%が意義があると回答していた。看護学臨地実習は意義があると回答した学生が多く、卒業後に看護の実践を行うことで、そのことの必要性を実感していると思われる。

本学の印象(イメージ)では、「教育内容が充実している」と回答した者が11名と最も多かった。次に多かったのは「就職支援が充実している」が8名であった。「地域連携に力を入れている」が6名、「社会で役立つ力が身につく」が5名の回答があった。

大学に対する満足度については、満足していると回答した者が17名(89%)であった。その理由として、「熱心に指導してくれた」、「先生や事務の方々が親身になって話を聞いてくれた」、「コロナ禍だったけど演習や実習ができた」「教員との距離が近く一人暮らしでも寂しさを感じることが少なかった」などであった。どちらともいえない・あまり満足していないと回答した2名(11%)には、特に理由はなかった。大学に対する満足度は高く、演習や実習における指導、チューター制による教員の支援が影響をしていると考える。

大学の推奨度については、推奨したいと回答した者は15名(79%)で、その理由は「K病院で実習ができる」、「学校生活は大変だったけど充実していた」、「周りに遊ぶ環境がないことが逆に良い点で勉強に集中できた」などでであった。どちらともいえないと回答した者が4名(21%)で、その理由は「田舎すぎて車がないと不便」「コミュニティが狭い」であった。

仕事の満足度とキャリア意識について回答を得た。その結果、「現在の職場での仕事を通じた成長実感がある」と思っている者が74%、「現在の仕事に意欲的に取り組むことができる」、「現在の仕事に満足している」と思っている者が68%であった。「現在の職場で評価されている」と思っている者が47%と少ない傾向にあった。現在所属する施設で評価されないと感じている学生が少ないのは、1年目の新人看護師であるためと考える。

2024年3月に卒業された皆様、調査にご協力していただき、心から感謝しております。今回の結果をより良い大学作りに向けて検討していく材料とし、教育活動や学生支援に役立てていきたいとと思います。今後の皆様の活躍を心から祈っております。なお、時々大学の方に足をお運びください。成長した皆様方にお会いすることを教職員一同楽しみにしております。

2025年9月

学長戦略室「評価部門」

2024 年（3 月）卒業生の動向

2025. 9. 3

学長戦略室 評価部門

目的

卒業生の就業と看護の実践状況を明らかにすることで看護基礎教育において教授に役立てる。

対象と期間

A 総合病院看護管理者への聞き取り調査

2025 年 4 月 14 日（月）14 時～14 時 50 分

内容

1. 2024 年卒業生の就業状況（2024 年 4 月から 2025 年 3 月）
離職及び休職状況とその理由と対応
2. 2024 年卒業生の傾向
3. 2024 年卒業生の看護の実践状況
4. 大学に期待すること

結果

1. 2024 年卒業生の就業状況（2024 年 4 月から 2025 年 3 月）
 - 1) 退職者
新卒者 131 名入職／6 名退職（4.6%）
本大学卒業生 54 名入職／退職 2 名（3.7%）
 - 2) 休職者
新卒者 131 名入職／休職 11 名（8.4%）
本大学卒業生 54 名入職／休職 5 名（9.2%）
 - 3) 退職及び休職の理由
人間関係がうまく図れない
複数の患者受け持ちをもてない（多重業務への対応ができない）
自信が持てない（他者と比較して落ち込む）
 - 4) 適応できない人への対応
①業務調整（受け持ち患者数の調整）
②指導体制の調整（チーム変更・指導者の変更）
③セルフサポートセンターの受診
④部署異動と休職後の復帰に向けた復職支援プログラムによる支援
- *部署異動の有無と希望の配属先を必ず確認している。

2. 2024 年卒業生の傾向

1) 看護の実践状況

新人研修ガイドライン手技到達度評価では、部署特有の手技など病棟で評価されているが、3月時点でのガイドライン上の手技はほとんど達成されている。

2) 記録

じっくり考える時間がないまま患者が変化していくため必要な看護問題にたどりつかない、またアセスメントが追いつかず患者の看護問題に気づくことができない者が多い傾向にある。技術習得や疾患理解の学習をしているが、看護過程の展開と結びついていない状況がある。

4. 卒業生の傾向

- ・ICU、ER の希望者は多い一方、外科系の配属希望者が少ない。
- ・重大な疾患を抱えているがカミングアウトできないまま就職している。
- ・看護過程の理解、経過記録（アセスメント）ができない。
- ・5年目看護師が約 50% の定着率であることから専門学校に比べ定着率は良い。

卒業年（経験）	入職者	退職者
2019 年（6 年目）	73 名	51 名（69.9%）
2020 年（5 年目）	58 名	30 名（51.7%）
2021 年（4 年目）	60 名	29 名（48.3%）
2022 年（3 年目）	58 名	7 名（12.1%）
2023 年（2 年目）	58 名	4 名（6.9%）
2024 年（1 年目）	54 名	2 名（3.7%）

5. 大学に期待すること

- 1) 患者の状態の変化に対応できる看護師の育成
- 2) 自身の健康管理及び受診行動がとれる看護師の育成